

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

すべての論述設問に字数制限がなかった。4題のうち、2題がA・B分けであった。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空欄補充 選択 記述 論述	遺伝子	生物	問5 II型変異のヘテロ接合体細胞の場合、3本とも正常ポリペプチドが結合して、三量体となる確率を考える。 問6 図4で検出されているのは、放射性同位体で標識されたDNAのみであることに注意する。	やや難
II	記述 論述 計算	遺伝	生物	問4 「体色が暗黒色、かつ産卵した受精卵がすべてふ化しない雌個体」の遺伝子型は <b>ggee</b> である。 ・F <sub>1</sub> 雌のうち、遺伝子型が <b>gg</b> である個体が産卵した受精卵はすべてふ化しないことに注意する。 ・解答は、「F <sub>2</sub> 個体全体」に占める比率を答えることに注意する。	やや難
III	選択 記述 論述	植物の反応	生物	問1 セン類、タイ類、ツノゴケ類はコケ植物であり、コケ植物は、根および維管束をもたない。	標準
IV	選択 記述 論述	光合成 種間関係	生物	問2 図1より、紅藻Bは紅藻Aより緑色光の吸収が大きく、また、図2より、光飽和点が小さく弱い光の下での光合成速度が大きいことがわかる。 問5 (イ)葉が群落上層に局在することと、弱光下での個体群呼吸量には、直接の関連がない。	標準

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまな分野から出題されるので、全分野について学習しておこう。
- ・文章読解力を高め、実験問題やデータ考察問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントなどを見抜く能力を高めよう。
- ・問題の分量が多いので、問題を読んだり論述解答を手早く行うための演習を積んでおこう。
- ・遺伝子、遺伝計算は出題頻度が高い。また、生態、進化と系統分類は両方とも出題される頻度が高い。注意して、学習しておこう。